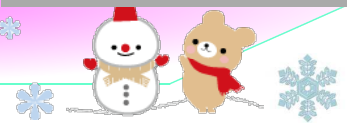




平成29年度

学校だより 第9号

高岡市立牧野小学校
平成30年1月15日



将来の夢

校長 笹島久美子

田子用務員さん作の門松



明けましておめでとうございます。

今年も変わらぬご支援・ご協力・ご声援の程、宜しくお願ひいたします。3学期が始まって1週間。子供たちは目標を立て、気持ちを新たに学校生活を送っています。

さて、1/5付の北日本新聞に「大人になったらなりたい職業」(全国の幼児・小学生1100人に調査)の調査結果が載っていました。男子の1位は「学者」(15年ぶり)、女子の1位は「食べ物屋さん」(21年連続)でした。

しかし、この子供たちが成人になる頃には、ロボットや人工知能、自動車の自動運転等の技術が一層現実的なものになり、今の仕事の70%は人工知能にとって変わられていくという学者もいます。こんな話を聞くと、親として子供の将来が不安になってきますが、ある教育関連会社の調査から子供の将来について、とても興味深いデータがあったので紹介します。

それは、「親とよく話す子供ほど、なりたい職業をもっている」また、「親が子供と将来や進路について話をする事は、子供が自分の将来の目標やイメージを描く手助けになっている」というものです。子供の頃はなりたい職業がよく変わります。それが、どんな職業であっても、その職業に憧れたり、興味をもったりすることで、子供の関心が家族や友達のことから社会にまで広がることが大事なのです。「学者になりたい」と答えた男子は「癌を完璧に治したい」「遊んでくれるロボットをつくりたい」という理由でした。女子の「食べ物屋さん」では「いろんな人を笑顔にしたい」「病気の人でも喜んで食べてもらえるスイーツを作りたい」という声が目立ったそうです。

子供は自分の将来を探すスタートラインに立っています。その職業に就いてどんなことをしたいのか、子供の夢と一緒に楽しく聞いてあげることが大事だと思います。

親として「勉強しなさい」の声かけが必要な時もありますが、どうぞ、お子さんと一緒に将来の夢を見つけてみてください。本来の学習にも必ずプラスに作用するはずです。

私が、初任の頃、先輩教員から教えてもらった言葉の一つに「人に魚を与えれば1日で食べてしまうが、釣り方を教えれば一生食べていける」という諺があります。魚という答えを与えるのは簡単ですが、釣り方を教えることはそう簡単ではないということを再認識させられます。どんな社会になっても目先のことにとらわれず、たくましく生きる子供たちを家庭と学校と協力して育てていきたいものです。

書き初め大会

1月9日、始業式の後に書き初め大会を行いました。3年生以上は体育館で、1・2年生は教室で行いました。ピンと張り詰めた空気の中、1文字1文字心を込めて書きました。

